

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立末広小学校

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成27年4月21日（火）

3. 調査の対象

小学校第6学年，全児童

実施児童数（ 80 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語・算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べてやや上位層が少なく、下位層がやや多い。
平均正答率（本校 58.5／泉佐野市 66.7／大阪府 67.6／全国 70.0）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多い。
平均正答率（本校 52.0／泉佐野市 59.2／大阪府 62.7／全国 65.4）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。</p> <p>3 聞き方の説明として適切なものを選択する (36.3/53.0)</p> <p>【書くこと】 ○具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことに課題がある。</p> <p>4 説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する。 (76.3/86.0)</p>	<p>【読むこと】 ○新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることに課題がある。</p> <p>5一 コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する。 (46.3/59.5)</p> <p>5二 コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。 (5.0/19.8)</p> <p>7 作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る。 (57.5/73.9)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことに課題がある。</p> <p>1-3 漢字を読む (81.3/92.5)</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。</p> <p>1二1 漢字を書く (47.5/58.4)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【書くこと】 ○目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事に書くことに課題がある。</p> <p>1三 【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く。 (19.0/34.7)</p> <p>○目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることに課題がある。</p> <p>2二 【文章】の要旨をまとめて書く。 (67.1/78.4)</p> <p>○文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことに課題がある。</p> <p>2三 楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く。 (25.3/41.6)</p> <p>○登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することに課題がある。</p> <p>3二 声に出して読むときの工夫とその理由を書く。 (53.2/66.6)</p>	<p>【読むこと】 ○目的に応じ、中心となる語や文を捉えることに課題がある。</p> <p>2一ア 【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く。 (59.5/75.5)</p> <p>○登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることに課題がある。</p> <p>3一 （絵3）の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する。 (50.6/60.4)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	40.8	61.1	○	20.3
国語の勉強は大切だと思いますか	76.6	92.0	○	15.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	72.8	82.0	◇	9.2
読書は好きですか	60.5	72.8	○	12.3
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	66.6	88.6	○	22.0
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	33.3	65.2	○	31.9
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	26.0	61.2	○	35.2
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	43.2	72.7	○	29.5
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	55.5	77.2	○	21.7
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	81.5	83.3		1.8
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	64.2	67.6		3.4

- 「国語の勉強は好きですか」という項目では、全国と比べ20.3ポイントも低位にある。昨年度の結果6.2ポイント差に比べ、本年度は大幅に国語嫌いの児童が増加しているという結果になり、懸念される。このことが後の質問項目の結果にも反映されており、「国語の勉強は大切だと思いますか」では全国との差が3.8ポイントから15.4ポイントに、「国語の授業の内容はよく分かりますか」では3.1ポイントから9.2ポイントに、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では1.4ポイントから22.0ポイントに広がってしまっている。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という項目では、全国と比べ31.9ポイントも低位にあり、昨年度の差12.4ポイントと比べて約2.5倍に差が広がっている。本校児童が目的に応じて読み取ったり、読み取ったことをもとにして自分の考えを話したりすることができるという、今求められている「PISA型読解力」の確かな育成が課題である。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という項目は、今回の国語に関する項目の中で全国との差が一番大きく、35.2ポイントも開いていた。日常生活に生きて働くコミュニケーション力の向上を含め、確かな「表現力」の育成が課題である。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、下位層が多い。

平均正答率（本校 70.3／泉佐野市 73.5／大阪府 74.8／全国 75.2）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べ中・上位層が少なく、低位層が多い。

平均正答率（本校 37.3／泉佐野市 40.8／大阪府 44.1／全国 45.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことに課題がある。 1（2） 5. 21 + 0. 7は0. 01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く。 (63. 8/74. 3)</p> <p>【量と測定】 ○日常生活の中で必要となる時刻を求めることに課題がある。 3 午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める。 (63. 8/74. 8) ○180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることは概ねできている。 4（2） 分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める。(60. 0/58. 0)</p>	<p>【図形】 ○見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解することに課題がある。 6（2） 作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ (57. 5/67. 6)</p> <p>【数量関係】 ○式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することに課題がある。 8 ○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る (73. 8/88. 1)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することに課題がある。 4（1） 四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く。(34. 2/52. 6) ○切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断することに課題がある。 4（2） 切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ。 (49. 4/62. 0)</p> <p>【量と測定】 ○長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することは概ねできている。 5（1） 示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く。 (19. 0/12. 5)</p>	<p>【図形】 ○平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質の理解に課題がある。 1（2） 作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。 (44. 3/54. 6) ○条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることに課題がある。 5（2） 示された図形の色がついた部分の面積を求める。 (32. 9/47. 8)</p> <p>【数量関係】 ○示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述することに課題がある。 2（3） 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く。 (35. 4/51. 0)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	59.3	66.6	◇	7.3
算数の勉強は大切だと思いますか	88.9	93.1		4.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	80.2	81.0		0.8
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	72.8	77.5		4.7
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	65.5	79.6	○	14.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	45.7	67.7	○	22.0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	79.0	90.3	○	11.3
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	58.1	79.1	○	21.0
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	66.6	80.6	○	14.0
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	66.6	83.8	○	17.2
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	83.9	84.6		0.7
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	61.7	63.7		2.0

- 「算数の勉強は好きですか」という項目では、全国が昨年度とほぼ同じポイント数なのに対し、本校は昨年度の67.0ポイントから本年度は59.3ポイントと下がり、全国との差も0.9ポイントから7.3ポイントに広がっている。本校児童の算数の勉強に対する興味・関心が、やや低下傾向にあることが懸念される。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という項目では、昨年度の75.0ポイントから本年度は65.5ポイントと約10ポイントも低下し、全国との差も3.1ポイントから14.1ポイントと大きくなっている。既習の知識を使って諦めずに解決方法を考えるという自力解決の姿勢が弱く、分からなければ安易に諦めてしまうという傾向がうかがえる。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目では、昨年度の58.0ポイントから本年度は45.7ポイントと約12ポイントも低下している。全国との差も8.3ポイントから22.0ポイントと極端に拡大してしまった。学校での算数の勉強を、自分たちの日常の実生活に生かそうという意識が希薄で、このことが学習意欲等の低さにも大きく影響しているのではないかと考えられる。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国と比べ、中・上位層が少なく、下位層が多い。
平均正答率（本校 47.9／泉佐野市 53.6／大阪府 57.3／全国 60.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>【物質】</p> <p>○予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。</p> <p>3（2） 水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ。 (43.0/54.0)</p> <p>○メスシリンダーの名称理解に課題がある。</p> <p>3（4） 示された器具（メスシリンダー）の名称を書く。 (29.1/70.7)</p> <p>○メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けることに課題がある。</p> <p>3（5） メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ。 (40.5/51.7)</p> <p>○析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述することに課題がある。</p> <p>3（6） 水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く。 (17.7/28.9)</p> <p>【エネルギー】</p> <p>○熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述することに課題がある。</p> <p>1（3） 振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く。 (44.3/62.8)</p> <p>○電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善することに課題がある。</p> <p>1（5） イ 電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ。 (49.4/66.2)</p>	<p>【生命】</p> <p>○メダカの雌雄を見分ける方法の理解に課題がある。</p> <p>2（1） メダカのめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ。 (65.8/78.0)</p> <p>○生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析することに課題がある。</p> <p>2（2） 生物の成長に必要な養分のとり方について仲間分けした観点を選ぶ。 (62.0/76.3)</p> <p>○植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述することに課題がある。</p> <p>2（5） インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く。 (19.0/44.2)</p> <p>【地球】</p> <p>○方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析することに課題がある。</p> <p>4（1） 方位についての情報から、観察している方位を選ぶ。 (17.7/41.0)</p> <p>○星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析することに課題がある。</p> <p>4（4） 観察した星座や雲の動きを選ぶ。 (53.2/65.0)</p> <p>○水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。</p> <p>4（5） 水が水蒸気になる現象について、その名称を書く。 (30.4/58.5)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	65.5	83.5	○	18.0
理科の勉強は大切だと思いますか	66.7	86.9	○	20.2
理科の授業の内容はよく分かりますか	71.6	87.9	○	16.3
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	81.5	86.9	◇	5.4
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	45.7	69.3	○	23.6
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	55.6	74.5	○	18.9
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	24.6	28.8		4.2
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	28.4	54.9	○	26.5
観察や実験を行うことは好きですか	81.5	90.1	◇	8.6
理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	34.5	75.3	○	40.8
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	55.6	80.4	○	24.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	44.4	67.1	○	22.7
調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）	77.8	79.6		1.8

- 全体的に、全国との差が大きい項目が多い。「理科の勉強は好きですか」という項目では、全国に比べ理科嫌いの児童が多いことがうかがえる。「理科の勉強は大切だと思いますか」という項目では、全国に比べ理科学習の大切さを自覚している児童が少ないことが分かる。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」・「観察や実験を行うことは好きですか」という項目では、全国との差が5.4ポイント、8.6ポイントと比較的小さく、本校児童は理科的な体験活動に関しては全国並に経験や興味・関心があることがうかがえる。
- 「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」という項目では、本校が34.5ポイントに対し全国が75.3ポイントで、全国との差が40.8ポイントと最も大きくなっている。自分の予想をもとに観察や実験を計画的に行っている児童の割合は全国の半分以下という結果で、これは理科に限らず、本校児童が主体的な学習に取り組めていない部分の一端を表している。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択（78問）で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	基本的な生活習慣はほぼ定着しているものの全体的には全国より低位にある。挑戦意欲等は全国を大きく下回り、テレビ・携帯等のゲーム時間の長さが学習時間に大きく影響している。自尊感情の低さは全国を30ポイント以上も下回り顕著である。	<p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 <66.6/79.5></p> <p>○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 <77.8/94.5></p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。 <59.2/76.4></p> <p>○自分には、よいところがある。 <44.4/76.4></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加している。 <23.5/66.9></p>
【家庭学習の様子】	宿題はしているものの、家庭での計画的な学習にまで結びついていない。また、家庭で予習・復習をする習慣が定着しておらず、児童の着実な学力向上を阻害する大きな要因となっている。	<p>○家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 <33.3/62.8></p> <p>○家で、学校の宿題をしている。 <91.3/96.8></p> <p>○家で、学校の授業の予習をしている。 <14.8/43.4></p> <p>○家で、学校の授業の復習をしている。 <11.1/54.5></p>
【学校での学習の様子】	友達の話聞くことができるという学習の基本が全国より10ポイント以上も低い。また、話し合い活動や振り返り活動、主体的な課題解決学習等の取り組みが不十分で、児童に対して意識化が図れていない実態がある。今後、更なる指導方法等の改善が必要である。	<p>○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。 <80.2/92.9></p> <p>○5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。 <59.3/85.2></p> <p>○5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。 <38.3/74.2></p> <p>○5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。 <50.6/75.3></p>

本校の取組み

◎これまでの取組み

これまでの全国学力・学習状況調査や大阪府学力・学習状況調査の結果から見てきた本校児童の学力等の課題について、分析結果を整理しながら改善点を探り対処し、その改善に取り組んできた。

例えば、全学年を通して、第1限前の8時35分から8時50分の15分間を「かがやきタイム」と位置付け、毎週（火）（水）（金）曜日に国語の漢字や文章の読み取り、言葉のきまり、算数の計算や文章問題など、基礎的・基本的な内容の定着を図るための取り組みを行ってきた。（平成27年度からは、教科を算数に絞って実施。）

さらに、学校独自の「診断テスト」を毎学期実施し、基礎的な四則計算については一定の改善が図られてきた。また、特に理解が困難な児童については、休憩時間をはじめ放課後等を利用して個別の指導も行い、学力の定着に配慮してきている。

また、日常の授業においても、自力解決的な学習指導の活用や「めあて」の提示と「ふりかえり」の活動を重視した授業スタイル（型）を導入し、指導方法の工夫・改善にも取り組んできている。特に、一昨年度からは児童の思考力を高めるためのノート指導を重視し、取組みを進めているところである。

◎これからの取組み

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、数字的には従前からの本校の課題が依然として改善できておらず、今後も継続して粘り強く学力向上に向けた取り組みが必要であると考ええる。

特に、児童質問紙調査の結果から見える本校児童の学習状況におけるさまざまな課題が、学力の改善を阻害している大きな要因の一つとして考えられる。

例えば、家庭学習の様子では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」という児童は33.3%で、全国と比較すると29.5%も少ない。また、「家で、学校の授業の予習をしている」という児童は14.8%で、全国よりも28.6%も少ない。さらに、「家で、学校の授業の復習をしている」という児童は11.1%で、これについても全国と比べ43.4%も低い数字となっている。このように、家庭学習の状況だけを取り上げて、学力の向上を阻害する原因の数々が顕著に現れており、学校だけではなく学校・家庭が連携・協力し、一体となって課題の改善に取り組むことが求められていると考える。

これまで本校が学力向上のために取り組んできた授業改善策をはじめ、引き続き家庭学習の拡充について取り組みを進めていかなければならないと考える。

具体的には、昨年度に引き続き以下の4点について、児童に徹底させるよう家庭と協力し、推進していく考えである。

- 1 宿題は、必ず、下校後すぐに取り組ませる。 → 当日の学習内容の確実な定着をめざす。
- 2 宿題以外、毎日、計画的に予習・復習（家庭学習）に取り組ませる。
→ 主体的な学習習慣の醸成をめざす。

※ 目標として、家庭学習の時間＝各学年の宿題＋各学年×10分間（理想は、学年×20分間以上）
をめざす
※ 学校のテストやプリント等を活用（反復による学習内容の定着と予習・復習の習慣付けをめざす。）
- 3 家庭における家族の対話を意識的に増やすことに取り組ませる。
→ コミュニケーション力の向上とテレビ・ゲーム等の視聴・使用時間の削減をめざす
- 4 本（まんが以外）や新聞等を読む機会を増やし、考えたことをノートに記録したり、短い文章でまとめたりする習慣を付けることに取り組ませる。 → 思考力・判断力・表現力の向上をめざす。